夢には続きがある

Dreams come true.

夢は見るものではなく、かなえるもの

強くなりたいと思う人には、必ずストーリーがある。
夢を追うまなざしは、常に未来を見据えている。

本市のソフトボール競技レベルは、県内トップ。今年も花泉・涌津スポ少、藤沢・黄海スパーキッズが夏の全国大会に出場した。千厩中は県中総体で優勝。一関一高は、春の全国選抜大会に出場するなど、小学校から高校まで他を寄せ付けない。

神奈川県横浜市戸塚区に本拠地を置く、日立ソフトボール部。今年4月に入部した那須千春選手(18)は、大東町摺沢の出身だ。

那須選手も小学校から高校までソフトボールに明け暮れた、いわばソフトボールの申し子だ。現在、所属する日立ソフトボール部では、新人ながらショートを守り、打順は5番。9月11日現在の打率は4割3分9厘で、リーグ2位。今年の日本リーグ新人王の最有力候補だ。今年8月の世界ジュニア選手権大会では、全日本メンバーに。ソフトボール界のヒストリーに名を刻み続けている。

夢は見るものではない、かなえるもの―。

その言葉を実証し続けているのが、ここソフトボール王国・一関が生んだ彼女だ。那須選手のストーリーは、これからも続く。

1_摺沢小4年の新人大会で力投する／2_父・勉さんが監督を務める。小6で全国へ／3_小6の全国大会でのバッティング／4,5_中学時代には、全国ジュニア育成研修で台湾遠征を経験した／6_インタビューの様子。これからの練習方法や目標について語ってくれた／7_バットはいつもフルスイング。迷いのないバッティングを心掛けている

日立ソフトボール部
那須千春さん Nasu Chiharu

PROFILE／1997年大東町生まれ。身長161センチ。右投右打。3月に高校を卒業し、神奈川県に本拠地を置くソフトボール実業団チームの日立ソフトボール部に。新人ながらショートを守り、中軸を打つ。父から教えられた「好球必打」がモットーで、思い切りのいいバッティングが信条。8月に、米国で行われた19歳以下の世界選手権に出場。準優勝に貢献した。

夢は「五輪のメダリスト」夢こそ、私の原動力です

姉がソフトボールをやっていたこともあり、小学校からソフトを始めました。中学校でも続け、山形の上山明新館高校に進学。仲間とともに、一生懸命練習に打ち込みました。実業団チームの日立が山形で合宿した際に、日立の選手と一緒にプレーする機会がありました。厳しい練習にも笑顔で取り組んでいる雰囲気が印象的で、入社を決意しました。

実業団のプレーは、スピード、パワーも学生の頃とは桁違い。スピードについていくのは大変です。もっともっと練習しなければなりません。好きな言葉は「熱く冷静に」。闘志をむき出しにしながらも、冷静に状況を判断してプレーできる選手を目指したいです。

小学6年だった2008年。北京五輪で、日本代表のソフトボールチームが金メダルを獲得しました。「いつか五輪の舞台に立って金メダルをとりたい」そんな思いがどんどん大きくなってきました。

私の夢は「五輪のメダリストになること」。

夢に向かって、自分で選んだ道を一歩ずつ歩いていきます。20年の東京五輪で、ソフトボールが正式種目に復活することを願いながら、険しい道も切り開いていきます。「かなえたい夢があること」これが、私の活動の原動力です。

さあ、踏み出そう。

国体は、国内最高峰のスポーツの祭典。1946年から69年にわたり、人々の感動を集めてきた。岩手国体が開かれた45年前。全国にテレビが爆発的に普及した、高度経済成長期。人々は岩手で初めて開かれる国体に心躍らせ、目の前で繰り広げられる熱いドラマに心打たれた。

国体はアスリートが自分を試すひのき舞台でもある。幾多の困難を乗り越え、厳しい練習を繰り返してきた選手が、自分の持つエネルギーすべてを注ぐ場だ。アスリートの不屈の精神は、今も昔も変わらない。

国体の開催は、ゴールではなくスタート。開催を機に、一関のスポーツがさらに進化し、すそ野を広げていくことこそが重要だ。

夢に向かって。

スポーツは、まさに筋書きのないドラマだ。人々は、ドラマの展開を固唾(かたず)をのんで見守る。結末は劇的で分かりやすく、人々を熱狂させる。観客を魅了するのは、勝利や敗北の裏に心を動かす背景があるからだ。

スポーツには、無限の力が宿っている。スポーツは、人間が持つ力を引き出してくれる。それは、次の行動へのアプローチになる。そして、困難に打ち勝つ勇気を与える。アスリートの一生懸命な姿は、見る人に夢と感動を与える。その力を体感できる国体の開催まであと1年。みんなで熱量を上げていこう。感動の舞台は、すぐそこに迫っている。